

いじめを見逃さない日 講話内容（一緒に考えてみてください。）

## 認知のゆがみといじめ

今回も、一人一人が快適に生活できることを願ってお話をします。テーマは「認知のゆがみといじめ」です。認知というのは、周りの出来事をとらえる能力のことですが、認知の仕方は人それぞれ異なります。ところが、この認知の仕方には落とし穴がたくさんあり、今日学習する内容を理解していないと、誰もが人をいじめてしまう可能性があります。

さて、私たちの身の回りには、「思い込み」や「誤解」がいっぱいあります。

例を使って考えてみましょう。

（例1）Aさんは勉強が得意なので、ヒューマンスキル（人格）も高いだろう。

（例2）Bさんは人相が悪いので、犯罪者かもしれない。

どうでしょうか？その通りだと思った人もいるかも知れません。しかし、これらには科学的な根拠は一切ありません。つまり、誤った考え方なのです。これを認知のゆがみ、認知バイアスと言います。

では、自分や他者の善悪の基準をゆがめ、いじめ加害者となってしまう、7つの種類を紹介しましょう。自分に当てはめて考えてみてください。

① 道徳的正当化	あの子は嘘つきだから、ちゃんと反省させるために、クラスみんなで無視するの。その方があの子にとっていいのよ（これは教育だよ）。
② 婉曲なラベル	いじめじゃないよ、ふざけていただけ。冗談を言っていただけ。遊んでいただけ。
③ 責任の転嫁・拡散	あの子が殴ろうって言ったから殴ったんだよ。それに、僕だけじゃなく他のみんなも殴ってたよ。
④ 結果の無視や矮小化	平気そうな顔をしていたよ。少なくとも泣いていなかったし、きっと何とも思っていないよ。鈍感だから。
⑤ 非人間化	人をいじめてはダメだけど、あの子は虫だからいじめてもいいんだ。虫にそっくりなんだもの。
⑥ 都合のいい比較	隣のクラスのいじめは本当に残酷なの。それに比べたら、私たちのしていることなんていじめとは言えないよ。
⑦ 非難の帰属。	あの子は普段から嫌なことばかり言うから、いじめられても仕方がないよ。

これまでみてきたような例は、すべて言い訳に過ぎません。いじめは、被害者が大きなリスクを負う可能性があるとても恐ろしいものです。

### 自殺 心身症 不登校

最後に、いかなる理由があっても問題解決の手段として「いじめ」を用いることは、絶対に許されません。したがって、まず自分が善悪の判断をしっかりと持つことが大切です。